

## 2007年度 大谷大学教育後援会文芸奨励賞 「いま伝えたいこと」50字表現 入賞作品発表

今年度の大谷大学教育後援会「文芸奨励賞」の入賞作品は以下のとおりです。この賞は、在学生を対象に文芸作品を募集し、言葉による表現意欲を奨励することを目的にしています。

今年度も昨年度同様「いま伝えたいこと」をテーマに50字以内で表現していただきました。今回、49名の方から応募が寄せられ、選考の結果、次の方々が入賞されました。

表彰式は、10月26日(金)、宗祖御命日勤行において行われました。

**最優秀賞** 該当者なし

<b>優秀賞</b>	小川 礼華 (人文情報学科 第1学年)	瀬尾 理江 (哲学科 第3学年)
<b>佳作</b>	石黒 宗登 (哲学科 第2学年)	泉 ゆかり (文学科 第1学年)
	河村 敦 (哲学科 第2学年)	神崎 亜弥 (哲学科 第1学年)
	木村 有加里 (文学科 第2学年)	谷川 明子 (仏教学科 第3学年)
	眞壁 孝治 (哲学科 第3学年)	

〔最優秀賞〕 該当者なし

〔優秀賞〕

**小川 礼華**  
(文1・人文)

---

普通って何  
普通ではないって何

普通の基準は  
人の数あるから

自分の普通と異なるものを  
特殊だと決め付けないで

〔優秀賞〕

**瀬尾 理江**  
(文3・哲)

---

私の視力が弱まるように  
想いや記憶、全てが色褪せていく

覚えていたい  
今の気持ちを、今の私の中にある真実を

〔佳作〕

**石黒 宗登**  
(文2・哲)

---

知れば知るほど知らないことが増えていき  
知ることが恐くなる。  
しかし、知るのを止めることはできない。

〔佳作〕

**泉 ゆかり**  
(文1・文)

---

迷った分だけ「ありがとう」を伝えよう。  
安心して迷わせてくれる全ての人に  
迷う事なんて、沢山ある。

〔佳作〕

**河村 敦**  
(文2・哲)

---

私は今日  
ふと  
生きていて良かったと思った。  
それは  
ただ、  
図書館の窓辺に  
美しい西日がさしたからである

〔佳作〕

**神崎 亜弥**  
(文1・哲)

---

この出会いに感謝!  
それは貴方達に出会えた奇跡☆  
大谷大学で得られた  
「人間」という名の  
宝物……

〔佳 作〕

木 村 有加里

(文2・文)

人に合わせることで、自分を守った。  
でも、個性を持って人と違うことである  
のはとても楽しい。

〔佳 作〕

谷 川 明 子

(文3・仏)

後悔は重くのしかかるが、弱さを投げ飛  
ばす糧になる。

〔佳 作〕

眞 壁 孝 治

(文3・哲)

どんなに高く聳えた「山」も、歩み続け  
れば必ず「到達」できる。焦らず諦めず、  
今こそ、その「一歩」を。

## 大谷大学教育後援会文芸奨励賞選考にあたって

教育後援会の学生支援奨学金の一環として「言葉による表現意欲を奨励することを目的」に、昨年度より文芸奨励賞の選考をいたしております。今年度も「いま伝えたいこと」と題して50字以内の自由表現で作品を募集いたしました。2年目ということで応募が増えるかと思っておりましたが、反して昨年度の3分の1ほどにとどまり少し低調でありました。選考にあたっては、本学の先生方に審査をお願いし、優秀賞2名、佳作7名を

入賞として決定いたしました。

先日若くして亡くなられたZARDの坂井泉水さんの「負けないで」の作詞は、一文章45文字から60文字位で、50文字の表現は相当な文章力のいるものです。応募作品には若者としての力が感じられ、うぶな気持ちが素直に表現されていました。ただ最優秀賞の該当作品が出ず残念なことでした。

専門分野だけの勉強に偏らず、趣味の分野にも大いにチャレンジしてほしいと願っております。文

大谷大学教育後援会会長 頼尊 聖

芸のみならず、芸術、美術、音楽、演劇、スポーツ等若いからできること、学生時代にしかできないことなどにも大いに活躍してください。そこから新しい自己を見出すこと、又それによって自身の進路が見えてくることもあります。今まで気づけなかった自分の隠れた才能が発見できるかもしれません。次の機会にはあなたの作品をお待ちいたしております。

## 文芸奨励賞の選考をおえて

「いま伝えたいこと」50字表現を学内で募集をしましたところ、応募作品が49編ありました。それぞれに味わいのある作品が寄せられました。

選考には、教育後援会会長と3名の先生方に学内選考委員をお願いし、選考会を開きました。選考に際して留意した点をいくつかあげておきます。まずは50字というフレームのなかで、伝えるべき思いや伝えたいことが十分に表現されているかという点にポイントをおいて審査しました。50字というフレームは、応募者にとって多少窮屈な感じがあったかもしれませんが、フレームがあることで、無駄

な表現を省き、言葉に「いのち」を吹き込み、こころに響く表現であるかというところに審査のポイントをおきました。また、「誰に」対して伝えたいかという対象については、作品の持ち味でもあるところですが、対象が捉えにくく、あいまいな作品を選外としました。

今回は、優秀賞2点、佳作7点の作品が選ばれました。優秀賞に選ばれた小川さんの作品は、極めて大切な人間観をととてもやさしい感性をとおして言葉で表現した作品でした。読み手にとって、心地よいインパクトを残す作品といえるでしょう。同じく優秀賞の瀬尾さんの作品は、心象風景とも内観

学生部長 佐賀枝 夏文

ともとれる表現のなかに極めて鋭利な感覚をもって、読み手のところをつかむ秀逸した文章でした。優秀賞の両作品ともに、読み手のところに残照を残し、読み手のところが自然に動き出すような作品づくりがうかがえました。

残念ながら最優秀賞に該当する作品はありませんでした。佳作7点については講評を割愛しますが、読み手のところをつかむ秀作であったことを申し添えておきます。

文芸奨励賞は、谷大のあたらしい文化として、また、文化形成の役割を担う催しとして定着することを願っております。